

秩父夜祭

12月2日(土) 宵宮案内図

秩父夜祭とは



京都の祇園祭、飛騨の高山祭とともに日本三大曳山祭に数えられる秩父夜祭は秩父の総社、秩父神社の例大祭で、三百有余年の歴史を誇ります。巧みな技を極めた極彩色の彫刻や、金糸をあしらった幕の刺繍などに彩られた、豪華絢爛な笠鉾・屋台が秩父屋台囃子の調べに乗り、冬の夜空を焦がす花火をバックに曳き廻される勇壮な祭りです。秩父神社の女神・妙見様と武甲山の男神・龍神様が年に一度、御旅所であ逢うというロマンスも伝えられています。



まわ ギリ廻し
笠鉾や屋台の方向転換は「ギリ廻し」と呼ばれ、テコの応用で山車を浮かし、軸を中心に回転する方法などを行います。重さ数十トンの笠鉾・屋台が大きく傾き、「玉入れ」という小太鼓の曲目が演奏されます。



かめ こいし 亀の子石
秩父夜祭の斎場である御旅所には、秩父神社の女神・妙見菩薩の神使とされる亀(玄武)が祀られています。妙見様と武甲山の男神との逢瀬の大切な役割を担う玄武を、地元では親しみを込めて「亀の子石」と呼んでいます。

秩父夜祭の笠鉾と屋台

<p>かみ まち やたい 高さ約6.7m 重さ約13t</p> <p>上町屋台</p> <p>屋根は4台の屋台の中で最も大きい。軒の出も多く華麗な屋台である。牡丹に唐獅子の水引幕、鯉の滝昇りの後幕の刺繍も見事。</p>	<p>かみ まち やたい 高さ約6.7m 重さ約14t</p> <p>中町屋台</p> <p>屋台の前後を飾る鬼板は、4台の屋台の中で最も大きい。その彫刻は、天の岩戸開きやスサノヲノミコトの大蛇退治など日本神話を題材にしている。</p>	<p>かみ まち やたい 高さ約5.5m 重さ約15t※</p> <p>中近笠鉾</p> <p>総体黒漆で、随所に金具を打ち、鬼板、懸魚(けいご)、妻飾りなど極彩色の彫刻を飾った宮殿風な構え。勾欄(こうらん)の丸彫金箔押の龍や内室の二十四孝の彫刻は見どころ。※笠鉾の重さです。</p>	<p>かみ まち やたい 高さ約6.5m 重さ約12t</p> <p>本町屋台</p> <p>彫刻や装飾など金箔押しの上に彩色をする贅を尽くした造りとなっている。後幕は玩具を積んだ宝船の刺繍が施され、中央のダルマが特徴的である。</p>	<p>かみ まち やたい 高さ約7m 重さ約20t※</p> <p>下郷笠鉾</p> <p>6台の笠鉾・屋台の中で最も大きく、重量もある。白木で仕上げられた本体に金の飾り金具が神々しさをかもし出す。通常は中近笠鉾と共に笠をはずして曳き廻される。※笠鉾の重さです。</p>	<p>かみ まち やたい 高さ約6.5m 重さ約12t</p> <p>宮地屋台</p> <p>秩父祭屋台のうち最も古く、端正な姿をとどめている。後幕は、想像上の霊獣・狸(しやうじやう)。水引幕は飛鶴の刺繍である。</p>
--	---	---	---	--	---

秩父夜祭のみどころ

やたい しばい 屋台芝居

屋台の両脇に張る舞台をつけて演じられる「屋台芝居」。宮地・本町・上町・中町の各屋台により4年に1度ずつの回り番となっており、今年はお本町屋台での上演です。

やたい ひ おど 屋台曳き踊り

屋台町である宮地・上町・中町・本町の各町内ごとに街の辻や他町会所前、秩父神社の神門前などに屋台を止めて、長唄の曲を演奏する地方と踊り手である方より「曳き踊り」という所作事を奉納します。

秩父夜祭絹市 開催

かつて秩父夜祭は、絹市(絹の取引)が開かれ発展しました。その絹市を復活し、織物、工芸品、地場産品などの販売を行います。

秩父の伝統工芸「秩父銘仙」は、平成25年国の伝統的工芸品に指定されました。

日時 2日(土) 11:00~19:00
3日(日) 11:00~20:00

場所 黒門通り、貫縦商通り (秩父神社より徒歩1分)

※詳細はこちらをご確認ください。

Facebook Instagram